

第1回 熊本市部活動改革検討委員会

<議事録>

日時：令和4年12月28日(水)10:00~12:00

場所：熊本市教育センター4階大研修室

○ 次第

- 1 委嘱状交付
- 2 教育長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 委員長選出
- 5 諮問
- 6 議事
 - (1) 部活動改革検討委員会の目的等
 - (2) 本市の現状
 - (3) 本市の基本的考え方
 - (4) 検討の方向性
 - (5) 今後のスケジュール
 - (6) その他
- 7 諸連絡
- 8 閉会

○ 議事録

教育長挨拶

【遠藤教育長】

皆様おはようございます。

本日は、年末の大変お忙しい中、まさに仕事納めの日に、お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

また、皆様、それぞれお忙しい中、委員をご快諾いただきまして本当にありがとうございました。

今回の部活動改革検討委員会ですが、ご存じのとおり、今学校の部活動は、少子化によって、部員数と部数の減少、それから、学校、教員の多忙感ということによる働き方改革の必要性、大きくこういう課題に直面をしております。

国でも、ご存じのとおりではありますが、部活動の地域移行ということで、休日の部活動を地域に移行する、それから、平日についても将来的に移行していくと、こういった方針が示されているところです。

一方で、それが順調にいくのかどうかという点では、3年間ということで国も期限を切っ

ておりましたが、最近になって、必ずしもその期間内でなくてもいいみたいなことを言われるところもあり、どうなるのかなという状況でございます。

そうした中で、熊本市はどのような方針を持っていくのかということをご審議をいただくわけですが、必ずしも、国の方針どおりにやればいいということではないという風に思っています。今申し上げますとおり、国の方針自体も揺らぐこともあれば、今後変わっていくこともありますので、それを絶対のものとして考えるのは、非常に危険であるという。私たちは、熊本の現状に沿って、熊本の子どもたちにとって何がベストかということを考える。そのためには、当然指導者の確保だったり、練習場所の確保だったり、お子さんの負担だったり様々な課題があります。

国が言うように、地域に移行するのか、あるいは地域と連携しながら、あるいは指導を地域に委託しながらやっていくのか、様々な方法が考えられると思いますので、ある特定の結論を先に決めて、この会に臨んでいるわけでは私も全くありません。

自由な立場から、それぞれのご経験にもとづいて、多様なご意見をいただければと思っております。そしてその中から、熊本の子どもたちにとって、先生方にとって、ベストな方法を見つけていければと思っておりますので、忌憚のないご意見を、ぜひよろしくお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

委員長選出

【中川委員】

中川と申します。それぞれのご委員さんを見てみますと、それぞれの代表者ということで、意見を言う立場でおられるかなと思いますので、こういう場合、意見をまとめるのは学識経験者じゃないかなと思いますので、坂下先生に委員長をしていただいて、まとめていただければありがたいなと思います。

【山本教育審議員】

中川委員ありがとうございました。中川委員から、坂下委員のご推薦がありました。皆様ご承認いただきましたら、拍手をいただきたいと思います。

ありがとうございます。それでは、坂下委員に委員長をお願いいたします。

坂下委員は、中央の委員長席へご移動をお願いします。

ここで遠藤教育長から、当委員会の諮問書を委員長にお渡しいたします。

それでは、坂下委員それから教育長はステージのほうにご移動をお願いいたします。

(教育長が諮問書(主文3行)を読み上げ、委員長に諮問書を交付)

それでは、この後は審議に移ります。進行を坂下委員長にお願いしたいと思います。それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

議事

【坂下委員長】

失礼いたします。一言ご挨拶申し上げます。

熊本市活動改革検討委員会の委員長を担当することになりました坂下と申します。責任の重さに身の引き締まる思いでございます。

部活動は、長い歴史をもっており、子どもたちにとってスポーツや文化活動の機会保障の場として、大きな意義を持ってまいりました。しかし、様々な問題や矛盾を抱えていることも指摘されております。

教育長からの諮問事項は、大変大きくとても難しいものであります。しかし、今を、そして、未来を生きる子どもたちにとって、よりよい環境を検討していくことは、私どもの責務と考えております。今回、お集まりの委員の皆様は、それぞれご専門のお立場で深いご見識と豊かなご経験をお持ちの方々でございます。たくさんのご意見を頂戴し、議論が深まるように精いっぱい努めてまいります。忌憚のないご意見をどうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、進行を代わりまして、早速審議に移ってまいりたいと思います。運営要綱第5条により、副委員長を選任することとなっております。

特定非営利活動法人ひとつくり JAPAN ネットワーク理事長をされておられる中川委員にお願いしたいと思いますが、皆さんご賛同いただけますでしょうか。

先生よろしくお願ひいたします。

では、議事に移らせていただきます。

まず、当委員会の今後の進め方について、確認を行います。本日の進め方ですが、この後、事務局から、本市の現状や基本的な考え方などの説明を聞いた上で、委員の皆様それぞれの立場からご意見を伺いたいと思います。よろしいでしょうか。

また、当委員会における議論は、今回を入れて、今年度計4回、来年度は2か月に1回程度行い、令和5年7月を目途に中間答申、令和6年3月に最終答申を取りまとめたいと考えております。

意見交換に入ります前に、事務局から、本市の部活動の現状や課題などについて説明をお願いいたします。

説明

【松永学校改革推進課長】

～省略～

意見交換

【坂下委員長】

ご説明ありがとうございました。

それでは残りの時間は、意見交換ということにしたいと思います。今の事務局からのご説明に対するご質問、また、検討事項として、部活動の持続可能な運営主体の在り方、地域社会との役割分担や指導者の確保、地域移行に伴う経済負担の在り方、このような協議内容が挙げられましたが、先ほども申しました通り今回第1回目ということで、委員の皆様から、忌憚のないご意見、もしくはご質問をいただければと思っております。どなたからでも結構です。

はい、藤川委員お願いいたします。

【藤川委員】

この資料と冊子についての質問ですが、これは持って帰っていいのかそれとも、これに記入していいのかちょっとそれがわからなかったので、教えてください。

【松永学校改革推進課長】

資料の方は、持ち帰りいただいて結構です。ご記入も結構でございますが、内容は十分把握をしているからいいとか、ご自宅にもあるということであればもう置いていただいて、私たちの方で次回またセットさせていただくということも可能でございますが、基本的にはご自由にお使いいただいて結構でございます。よろしくお願いいたします。

【坂下委員長】

よろしいでしょうか。

【藤川委員】

はい。

【坂下委員長】

他に、ございませんでしょうか。

【竹下委員】

すいません。先ほどご説明いただいたところで、小学校がもう既にやっている地域型スポーツですかね。お話がありましたけど、この地域というのは、どういうエリアをもって地域としているのか。その件が一つと、それと、スライドの67番目のところにありますが、21のクラブに所属している人数があげられていますけど、実際のその地域にいる子どもたちの、どれだけをここではカバー出来ているのか、ちょっと教えていただきたい。

【松永学校改革推進課長】

まず、地域ということの位置づけについて、学校改革推進課からお答えさせていただきます。これは国のほうでも様々なパターンお示しをされているところでございますが、運営団体そのものを学校部活動と完全に離れた団体が担うというイメージでの地域が当初はよく検討されていたところかなという風に思います。しかしながら、様々な自治体の実情を踏まえますと、そういったことが可能な地域は確かにあると思いますが、実際、そういった取組を始めるところもあります。例えば、地域と協働して何かやっていく、学校側が、あるい

は教育委員会が、イニシアチブをとってやっていくようなあり方で、地域の中に入って行く。そこで、先ほども申し上げましたが、部活動指導員ということの在り方について、地域人材の活用ということを踏まえますと、地域との連携といったことに入って来る。こういったことを国のほうは、今回新たに整理をして示しました。私たちも、同様に「地域」といった場合に、様々なことが考えられるのではないかという風に思います。

更には、その競技ごとの特性もございまして、競技ごとに見ていった場合の、地域との連携の在り方、これも様々あるのではないかなという風に思っています。その点について、ご意見をいただけたらと思います。

ただ、子どもたちの、例えば民間スポーツクラブへの参加状況も含めてですけれども、部活動に参加をしている生徒の状況についてはある程度把握ができていますが、実際にもう既に地域で活動する子どもたちの実態というのは、正直これまで把握ができてなかったといえますか、把握してこなかったというような部分があります。今回アンケートをとったということについては、そこを見たいということもありましたけれども、実際に地域で活動されていらっしゃる団体の皆様のご意見もぜひ伺いをしたいと思っております。

【岩山スポーツ振興課長】

もう一つの質問の方の「総合型スポーツクラブのほうで、学校部活動をどれだけカバーしているのか」という話ですけども、実際この資料の方が、令和3年12月現在という形で、まだ中学校自体の部活動が実際活動されている地域ということで、中学校の方に関しましてはほとんど、総合型地域スポーツクラブの方には加入されていないケースがあるかなと思います。スポーツ振興課として、そういったカバーしているかどうかというデータ関係は把握しておりません。そこは申し訳なく思っております。

小学校に関しましては、特に学校、地域のほうに移行しているケースが多いですけども、中には色々な総合型地域スポーツクラブも種類がありますので、色々なところに活動に参加している子どもたちもいっぱいいるということと、あと色々なスポーツクラブに加入して、地域のスポーツクラブにも加入しているという子どもたちが非常に多い状況でございます。

その中で、中学校の部活動をカバーしているかという情報に関しましては、そこら辺のデータは把握していないというのが現状でございます。以上でございます。

【西島委員】

龍田地域で実際総合型スポーツクラブを運営していますので補足させていただきます。

基本的に、それぞれの地域、私もいきますと龍田小学校と龍田西小学校校区ですが、この2校区の子どもたちが大体うちの場合は95%ぐらい。あと、隣の弓削小学校あたりでは生徒数が少ないので、そこに部活がない子が来ています。楠とか、あとクラブ自体が、活動がなくなったから入れてくださいという子どもも来ています。ほぼほぼですね、それぞれの地域、中学校区ぐらいのところではそれぞれの総合型のほうに来ております。

ただ、小学校部活の社会体育移行によって、野球部とか、ちょっと専門的な方たち、以前は地域の方たちの経験者が教えたのが、クラブチームの指導者の方が引き受けられて、学校を使って、ほかの地域の方も入っているという、特例、異例なケースも一部にはありますが、

ほぼ、どのクラブも 90%以上は、それぞれの小学校中学校区のところから来ていると認識しております。以上でございます。

【金森委員】

先ほどの、67 ページの総合型スポーツクラブの加入数の表を見ると、合計のところを見ると、中学生で 642 人、小学生で 3,159 人です。ざっくり考えると中学生熊本市 2 万人おります。2 万人の中の 642 人が入っているのだろうというふうに推測は出来ます。小学生がその 2 倍の 4 万人ぐらいの中の 3,159 人。部活動に入っている参加数を見ると、部活動、現在入っている部活動の生徒を、どう考えてもこの 21 の総合型地域スポーツで、受け皿としては非常に厳しい状況があるというのは、容易に推測できる。現状の部分では、カバーは出来ないのではないかなというふうな推測は出来ます。

【藤川委員】

私は、文化のほうですけれども、地域で、任意で、子ども邦楽体験教室をやっております。

1 番問題なのは、例えば学校のクラブでも、講師をやっておりますけれども、子どもさんの安全、例えば事故が起こったとき、そこに来ているときに、何か車の事故が起こったとか、それから、体験をやっているときに何かが起こった。そういったときに、やはりどう責任をとって、きちんとしていくかそういうところがいつも、やはりネックになってくる。そうするとその観点からも、議論の方向を見ていきたいというふうに思っております。

【坂下委員長】

ありがとうございます。大事な点の指摘だったと思います。

安心、安全、そして、国の方でも保険の問題とかですね、出されているので、しっかりそのあたりは検討していくようにしていきたいと思います。

【平江委員】

今年、富合町の文化祭、3 年ぶりにステージ発表を行いました。このコロナの中で、なかなか、文化活動に関わっていますが、特に私は歌を歌っていて、非常に難しい状況でした。やっと今年はステージ発表が出来ましたけども。

お尋ねが一つあります。富合小学校に、昨年までは器楽部というのがありました。そして今年、器楽部がなくなっています。中学校は、ブラスバンドが出てきました。顧問の先生、その学校の先生がおられて指導されていまして。働き方改革も含めまして、多分今過渡期であると思います。教員に対する、そういう時期ではありますが、顧問の先生がつかれないとか、そういう現状だと、今いる生徒が活動出来なくなります。その過渡期と言いつつもやっぱりその経過措置がどこかでは続けていってもらいたかったのですが、それが何かブツッと切られたようなイメージが私にある。それはちょっとマイナスじゃないかなと思いますが、一つ、例えば中学校とか、小学校に部活があると思いますが、顧問の先生はちゃんとつけていらっしゃるのでしょうか。

例えば、何かの大会のときにはさっきおっしゃられましたように、引率とかが、必ずつきまといます。それが社会体育になったときに、どういう風に扱っていくのか、その付近が 1 番難しいのかもしれませんが、やはり、部活動、中学校にその生徒がいる限りは、部活動にはやっぱりきちんとその顧問の先生が今はいらっしゃるのかどうかをちょっと質問いたし

ます。

【福田指導課長】

現在の部活動では、顧問は配置されております。

【星田指導課教育審議員】

小学校の話がありましたけれども、器楽部と吹奏楽、合唱とかというのが、大体残っているところが多いと思います。文化系は、一部地域に移行したところも若干あります。ただ、どうやって地域に移行するかとか、学校に維持するかとかいうのは、学校を中心に、話し合いを進めて、決定するという事になっておりますので、富合小学校の件は、詳しくは把握しておりません。後ほど確認をしておきたいと思います。

【金森委員】

中学校には、必ず部には顧問がいます。大会とかコンクールとかには、教員が必ず引率します。

【藤川委員】

高校に関してですが、私は第一高校の邦楽部を指導しておりますが、顧問とそれから実際に技術を教える外部の講師として教えております。顧問の先生の役割と、実際に教える講師と役割がありまして、顧問の先生は、先ほどおっしゃられたように、コンクールと、学外に出て引率される。そして、学校間で調整される音楽部会ですね、そちらで、学校間のやりとり。それから、学校とそのクラブのやりとりと、そういう役割をされ、そして、外部の講師としては、生徒の技術面を指導するという、はっきり役割を分けております。

なので、その引率の責任等などは、学校の顧問の先生が担い、その中身に関しては、そういう技術アップを外部の講師が行っているそういう状況もうかがえます。

【清田委員】

資料を拝見して思ったのですが、保護者は私も保護者の立場なので、分かるのですがけれども、学校の先生たちの、部活のポジティブな面、部活があっということがよかったという部分が、この資料だと、ちょっとわからないので、そのポジティブな面も把握することで、今後検討していく際に、地域にお願いする部分も、よい部分は残していただければいけないと思います。

やはり私たち保護者は、学校の先生たちが、どの面で、良いなと思っているのか、この辺はちょっと困る、その困る部分は先ほどの資料にも書いてありますが、ポジティブな面を知りたいなと思いました。

あともう1点が先ほど文化系の部活は、地域で何か受け皿があるのかなという、スポーツに関しては、クラブチームや地域のスポーツクラブがありますけれども、音楽をどこかでやりたいとなったときに、どこに所属すればいいのかなというのがあるなと思いました。

【松永学校改革推進課長】

1点目の、先生の部活動に対するポジティブな評価についてのご意見については、今後資料としてまとめさせていただいて改めてご提示をさせていただきたいと思います。当然これまで議論をする過程におきましては、先生方から、こういった、部活動が担ってきたところについては評価はいただいております。

【上野学校改革推進課教育審議員】

社会教育の中で文化部活動の実施ができるのかは大変難しい。学校の音楽室や体育館で活動することが多かったので、地域で行うことは大変。

特に私は文化部活動関係、担当しておりますけれども、今ご質問ありました、社会教育の中で、文化施設は練習ができる場所があるのか。ということは、現状のところ非常に厳しい状況であります。やはり今までが、学校の施設、学校の中で担ってきたものがある。それと、社会体育への移行に従って、体育館とか、グラウンド施設がもともとあって、それを利用して来ましたけども、子どもたちが例えば、手出しをし、公的施設の中で活躍でき、かつ、活動できるかとなると、非常に厳しいです。

【金森委員】

中学校に勤務しておりますので、ポジティブな面ですかね、その辺をちょっとお話させていただければと思います。

まず1点目は、部活動がやはり学校全体に活気を与えてくれます。放課後、何百人の生徒たちが運動場で体を動かして、声を出しながら、どんどんどんどん練習する。そういうことで、活性化といいますか、活気があります。うちの学校のことでですけど、全校生徒220名です。部員がどんどん減っています。今、サッカー部が0人。野球部が2人。ですので、運動場でやっているのが2人です。悲しくなります。大規模校あたりは、もう運動場に何百人も出て、放課後、ガンガン練習している。そのこと自体で、もう本当に活気をもらう。ほかの生徒ももらえるし、私が1番やはり、私はもう部活動は絶対残してほしいという考えです。部活動で、子どもたちが、その競技で、進路を選ぶ部分も出てくるでしょうし、トップアスリートになろうという子もいますし、私が1番心配するのは、子どもたちの居場所、その一つが部活動だと思っています。ですから、なかなか学校には足が向かない子も、部活動でつながって、練習には出てくる、大会に行きますよという生徒も少なくはありません。ですから、その部活動に所属する所属感と言いますか、子どもたち同士の、ちょっと勉強苦手だけど、野球部の中に入っている、ということで自分の存在感がある、居場所がある、その仲間とは一生懸命いろいろできる。そういうのを、実際感じます。ですから、そういう面でも、部活動はやはり私はなくちゃならないものという風に思っております。一人ひとりを生かすというか、そういうところが大きな、今まで部活動というのは学校教育でしたので、学校教育の中の部活動でしたから、学校教育の最終的な目標は、人格の完成と、それをみんなでやっていくということですので、そういう利点というか、情意性というか、なくなったらどうなるのだろうと。正直、不登校が増えるのではないかと感じます。

【坂本委員】

わが子のことを考えても、学校の本体の教育、授業とかの話はほとんどしたことないのですが、もうどっぷりと部活動には、親も関わっていて、子どもたちも生きがいみたいにしてやっていたわけです。ところが、それぞれ担当の先生とか、指導者のせいというか、おかげというか、子は3人いたのですが3人とも全然違う感想を持つようになって、振り返ってみて、あのときはよかったという子もいるし、二度とあそこに戻りたくないという子もいるし、そのぐらい、非常に重たいです。部活ってというのは。

今回、教育長の最初のご挨拶でもあったとおり、学校部活動を地域に移行するという国の基本方針はあるものの、熊本市は熊本市として独自の考えを考えていきたいということです。私は最初、資料をいただいた時に、もうそれを前提としてあるような風な読み込みをしていましたが、実はそうではない、今、校長先生たちもおっしゃったように、そうすべきではないというお考えの方もいらっしゃる中で、やはり、「学校」部活動という表現は、地域に移行したら「学校」部活動じゃなくなりますよね。何を地域に移行していいのか、今ある、教育的意義が非常に大きい部活というのを、先ほどお話あった、ポジティブな面、教育的意義は大きいと、まさに24ページに書いてあるとおり、いろんな面を含んでいる。ただ単に体力向上とかそういう話じゃなくて、技術を向上させるとかじゃなくて、部活で得るものというのは非常に大きいという教育的な意義というのを、1回整理し直してから議論した方が、何を地域に受け持ってもらえるのかとか、学校で何をやり続けるのかとかいう、整理をした方がいいなと思います。

今問題になっているのは、少子化ということで、活動が出来ないという現状が一つある。もう一つは、学校の先生の働き方改革、働き方改革の話はものすごく大きくて、これは前から、昔からずっと、学生たちが、先生になりたくないと思う原因の一つでもあるわけです。これは絶対改善していくべきであって、部活を地域に移行すれば、働き方改革にもつながりますという、副次的な話にしてありますけども、働き方改革のための学校の先生と部活の関係というのは、きれいに整理しなければいけないなと思っています。

少子化で人が足りないという話は、先進地がいっぱいあります。熊本市はまだ減ってない方で、県内でも、減っているところでは、もう全然活動出来ないところがあって、そこはこういうことをやって、どういうものがき方をしているかという実例があると思うので、その実例をちょっと調べていただきたいなと思っています。

この二つの改善すべき問題点というのは、それぞれに対応していきながら、この部活の教育的意義をどこでどういう風に担保しながら、地域が担っていくのかという、そういう議論を筋道立ててしていった方がいいなと思いました。

【坂下委員長】

大変貴重なご意見ありがとうございます。

部活動は、少子化とか、働き方改革とか、本当に関わる範囲が広くて、その辺りの整理と同時に、教育的意義、部活動の目的とか意味をしっかり整理して、議論が進むようにしていきたいと思います。

【稲田委員】

やはり同じく、冒頭の教育長のお話で、私はこの資料をいただいた時に、もう3年後には移行ありきかなというところで見させていただいて、もう、課題が多過ぎてというか大き過ぎて、どのようにたった3年間で、移行していくのかなと思いました。いよいよ移行の年になりました、地域では受け入れられていません、部活動は、平日しかしませんとかいう状態で、中学生にとってどうなっていくのか、不安な状況でしたが、今日のお話を聞いて、緩やかに、地域の実態とか学校の実態とかに応じながら、緩やかな移行であるということでは、少しほっとしています。これからしっかりこう練り込んでいくということですね。本当にたくさ

ん課題があって、小学校が地域スポーツクラブのほうに移行した時に、平成29年ですかね、その前にも、地域スポーツクラブのほうは、発足しているところもあるようですけども、地域スポーツクラブの社会体育移行受け皿一覧で、21のスポーツクラブがあり、小学校名はそこに書いてありますけども、26校ですかね。小学校の数というのは、熊本市内92校あるかと思いますが、恐らく先ほど龍田の仲よしクラブの方がお話しされたように龍田小学校が母体だけどそこに弓削小も来ているとかですね。この小学校以外の子どもたちも来てはいると思いますが、それが中学校を社会体育でこういう風に移行したときに、果たしてその42校ですかね、中学校の子どもたちの受け皿が、まずできるのかなとか、受け皿がない小学校の地域の小学校の子どもたちは、もう学校の部活動の総合運動部だけしかしていないとか、そういう風な実態も、中学校が移行するにあたって小学校のことも参考になるのかなと思いつつながら、この資料を見させていただきました。中学校の部活動数が、600部ぐらいですかね、その部数をどうやって地域で受け入れていけるのかなというあたりを、また検証しながら、小学校の実態を検証する必要があるかなと。もう一つ、今まで先生方から出てきてないのが、経費の問題かだと思います。どこかに、学校の教員が兼務する。何か、土日に活動したらそれなりの対価を払うというようなことが、いただいた資料に書いてあったと思いますが、対価をいただくというところでは、保護者負担になるのかなとか、それもちろんと、公的にほうから出るのかなとかそういった経費の問題も、保護者負担増になったりしないのかなというところあたりも、また、数年かけてしていかなければならないのかなと思っています。

【富田委員】

長年中学校の体育の教員をしていました関係上、自分が、歳をかなりとっていますので、時代錯誤的な話をするかもしれませんが、我々が子どもの頃学校部活動がありました。最近の働き方改革とか、地域移行とか、そういう話を聞いて心配していることがあります。それは、経済格差が子どものスポーツ活動や文化活動が、従来学校で行われてきて、私の家も農家で貧しかったのですが、学校に行くと、陸上やバレーボールに誘っていただいて、受益者負担で少しは親もお金を負担していたかもしれませんが、今、クラブで会費を取られる金額と比べるとはるかに、そういう貧しい農家の子どもでも、学校で運動が出来ていた時代がありました。今の状況見ていると、いろんな意味で経済格差が教育の世界にも押し寄せてきているなという心配をしています。子どもはいろんな可能性を持っていますので、働き方改革という、先生方の勤務の問題だと思いますが、部活動となると子どもの活動の場をどう確保するかということが主体だと思いますので、そこら付近を踏まえてですね、熊本市は、県はという、この部活動に関して言えば、大きな流れがありますね。一時社会体育に移行した時期がありました。事故の問題があって責任問題があってですね。僕は熊本以外でも、教職員を経験していましたから、熊本は変わっているなということ言われたことがありますが、僕は先進的だなと思っていました。社会体育移行していた時期ですね、それによって、学校の先生方が部活動から離れていったという実態はありますが、またいろんな、中体連の引率規約とかがあって、やっぱり学校の教員が引率しないといけないということがあって、また学校の教育活動に入ってきたところがあります。その期間にやっぱり教員の部活動

離れ、これ熊本だけじゃないと思いますが、熊本は特にそれが顕著に出てきていて、指導者確保が難しくなってきたのかなという気はします。先ほど質問がありました、部活動のポジティブな面ということであれば、学校としては多分、部活動で何を子どもに身につけさせるか、技術指導もちろんそうですが、そこら付近に狙いがあって、部活動で何を子どもに学ばせるかということの中で、金森先生が言うておられましたけども、学校の活性化とか、本人の生きる場所とか、あるいは、今で言うならば、少子化ですので、家庭では、全部が主人公みたいな主役みたいになりますけど、部活ではそうはいかないところがあって、いろんな社会の縮図を学んでいく。もちろんいろいろな指導者や、今、新聞等でも賑わせている体罰とか、行き過ぎた人とかも、中にはあっていたかとは思いますが、そこら辺は、現場の管理者の先生方が、常にこう、状況を見ながらですね、修正していくような形をとっていただければと思いますが、何か、地域に返すと言っても指導者もない、活動場所もないのが現状ですよ。私も地域総合型クラブに入って今ちょっと活動させてもらっていますけども、それは大人だからできることで、子どもを指導するとなるとやっぱり難しいところがあるんですね、そういう意味で、働き方改革の名のもとに、経済格差が出て、経済的に厳しい子が、活動の場がなくなっていくというのが非常に気になっているところです。そういう点も考慮しながらですね、学校の部活動というものを考えていただけたらありがたいと思います。

【西島委員】

若干関連して、先ほどの総合型の話が幾つか出ていますので、少し現状をお話しさせていただきます。

ほとんどの総合型が先ほど言いましたように、その住む地域の小学生中学生をほぼ、見ております。ただ小学校の部活の移行は先ほど言いましたように、野球とかいうので、コーチをどっから連れてこられるとそのコーチに習いたいということで入ってくるという形が少しは出てきていますけど先ほど言いましたように私のクラブで 95%ぐらい、他のクラブでも 90%以上は、そこで地域で見ているというのが一つ。

それと先ほど、先生のほうから質問ございましたように、6万人ぐらいいる中で、小学校でも 300 人ぐらいという話が出ております。私のクラブの方でいいますと、今小学生がもう 180 人ぐらいいます。今年また増えました。ただ小学校の部活として移行したのは、龍田西小学校と龍田小学校のサッカー部だけです。サッカー部の 4 年生から 6 年生までの人数からすると、合わせて今 35 人しかいません。他の部は、夜しかやりません。やっぱり先ほど指摘されていたように指導者の問題があります。どうしても指導者が働いていますので夜しか出来ません。

今、龍田西小学校、龍田小学校のサッカー部の活動は自営業の方とか、フレックスタイムの企業の方 4 人で回しているような感じです。講師の問題に加え費用の問題もありました。当然小学校で部活でやった時は、ほとんど費用がいりません。それが今度は、月 4,000 円とか 5,000 円取るということだったら、もうスポーツのクラブになってしまいます。そうすると、スポーツ出来ない子どもが出てくる。だから近くの場所で、安価な料金でできる所が必要である。私ども総合型はその担い手だと思っております。今うちのほうは大体 1 回 100

円ぐらいで、年間4,000円のプログラム会費とクラブ会費、保険とかいろいろありますので3,500円のクラブ会費という形でやっているような事情でございます。3,159人については、放課後に部活のほうは見ていただいているもので、大体7割ぐらいは、部活じゃなくて、夜に、以前から、地域の子どもたちにいろんなスポーツを楽しませるといった目的でやっている部分です。放課後の小学校の部活を受入れられる種目だけを、こういう形でやっているというのが現状でございます。課題についてはもう皆さん方おっしゃるところを今からいろいろ考えていただければいいかなと思っていますし、総合型がやれる部分の役割と、スポーツクラブの役割とか、あとは、スポーツ協会の方がいらっしゃいますけど、それぞれスポーツ団体で担っていただく役割とか、それぞれが分担しながら、この小中学校の部活動をやればいいかなと思って参加しております。

【竹下委員】

今、いろんな話出ていましたけども、部活動指導員は、その中間にいらっしゃる方と思っていますが、外に出す一步手前として、働き方改革になるし、顧問等の負担軽減のためということで、部活動指導員の導入が呼びかけられていたかなと思っています。この資料いただいた83ページに、令和3年度の部活動指導員配置数というのが書いてありまして、熊本市は其中で最も低い。中学校1校当たり0.1人、42校の中で、5人が配置されているということで、これは中学校から希望がなくて、こういう状況になっているのか、希望があったけど、候補になる人がいらっしゃらなくて、来ていないのかという情報と、こういう方々をしっかりと、現場からしてなかなか確保出来ないというのが私の印象としてありますが、通常の日、学校に来ていただいて部活の時間に指導し、土日に引率していただくというのは、仕事をしていただく内容として非常に夢のような形の人員の配置ということで提唱されましたが実際はなかなか、候補者がいないというのが印象としてあります。熊本市の実態として、希望がなかったのか、それとも希望があったけど候補が見つからなくてこういう現状になっているのか。あるいは入れられたところでは、当初の目的、目標とされたような、成果として上がっているのか等をお聞かせいただければありがたいなと思っています。

【福田指導課長】

部活動指導員に関しましては、指導課の方で担当させていただいております。まず、成果という点では、今年度5人の配置ではありますが、非常に大きな成果を上げております。まず、学校の先生方の負担は大きく軽減し、時間外勤務もほぼなくなるほどに効果を上げております。ただ、当然、指導員と学校の教員が協力して子どもたちの情報をしっかりと得ながら工夫しながらやっているところです。

人数の面ですけれども、当然これは増やしたいと考えております。現状としては、予算がかかってきますので、予算の面、それから、教育的配慮をしながら部活動の指導ができる方の配置など、いろんな角度から考えていかなければならないところがございます。

部活動指導員の確保に関しましては、各中学校の先生方のご協力を得まして、いろんな情報を得ながら進めているところでございます。

【松永学校改革推進課長】

少し補足をさせていただきます。ご指摘のとおり、部活動指導員の数について、政令指定

都市の比較でいきますと、大変数が少ないという現状がございます。その点は、課題と考えております。ただ、私ども「時間創造プログラム」をつくった時に、資料説明でも申し上げましたが、新しい部活動の在り方を早急に構築していくことを考えた時に、部活動指導員によらない、先生方の負担軽減のあり方をしっかり構築することで、総合的にカバーできるのではないかという風に考えていたところです。

部活動指導員については、国のほうでもしっかりと位置づけをされたところでもございますし、この方々が、ゆくゆくは地域での受け皿の中核的人材になるようなことも考えられると思いますので、今、指導課長も申し上げましたとおり、部活動指導員を入れたことによりどのような成果があったかというのを、関係局とも協議をしながら、必要に応じて、数の方は充実すること、これはしっかり取り組みたいと思います。

ただ一方で、大都市においては、大学が近くにあるとか、人数がそもそもたくさんいる等、単純に人を集めやすいというような状況がある上、それぞれの1人当たりの従事時間等、部活動の指導に当たる時間が本市と違います。また、この日は大丈夫だけど、この日は指導できない等、指導の一貫性においては、課題があったりするのかなというふうに思っています。単純にこの人数の比較だけでは中身の指導部分が見えないところがあります。

熊本市においては、この5人の指導者が、しっかりと部活動に継続的に関わっているということで、指導の一貫性あたりは担保されております。

更に今年度から、1人当たりの指導従事時間を増やしております。昨年度までよりは、充実した体制を整えておりますので、こういったものの成果がどうかを見極めながら、今後、予算として確保していきたいと思っております。

【月足委員】

私は保護者の立場で言いますと、部活動は、大変子どもたちにとってすごく良い機会でした。そしてその、学校で放課後そのまま部活ができるというのがすごく利点だと思っております。1度家に帰って、そして、地域スポーツは何時からかは、全部はわかりませんが、やっぱり7時半とかに集まって、活動するというよりも、放課後の時間を使って、校舎の中で、そのまま指導していただけるというのがすごく利点だと思います。あとやっぱり費用の面でも、みんなが平等に、ちょっと安い金額で、今まではさせていただいていたので、継続しただけしたら、先ほどもおっしゃられたように、子どもたちは、やりたいことがやれるという環境が減ってきていて、先生たちの働き方改革も必要なかもしれませんが、信頼関係があるのは、学校の先生たちかなと思っておりますので、親の立場としては安心して、学校で子どもを預けられるような状況で、かつやっぱり運動や、子どもがやりたいことができるような状況が続けばいいなと思って、お話を聞いていました。

今と同じ状況がその地域スポーツでつくればいいなと思いますが、受け皿がなかったら、隣の校区まで行かないといけないとかなった場合、小学生は、校区外となりいけない場合があります。親が送迎するようになったらやっぱり、それも仕事で出来ないとか、いろんな問題があると思います。子どもがやりたいことが、やれるように今後検討できればいいなと思いました。

【吉田委員】

学校教育の現場を全く知らない人間なので、とんちんかんな発言になるかもしれませんが、事前にいただいた資料の中で、37 ページですけれども、中学生保護者に、「部活動にも、クラブ（スクール）にも所属していない理由は何ですか。」という質問に対して、1 番多かったのが、「やりたいことがない」という回答です。生徒のほうで 42%、保護者のほうで 36.5%、今までお話伺っていて学校の先生たちとか、スポーツに関わっているあるいはその文化活動に関わっている方々はすごく熱心でこの部活動の意義についても十分に把握されて、それを講じておられるにもかかわらず、なぜ子どもたちがやりたいことがない、ということになるのか。要するに、自分は経験がないとかあるいはそういう、今の時代、いろんな価値観とか、関心とか多様化していますので、だから、あえて別に部活行かなくてもとか、という気持ちもあることもあるかもしれないですね。スマホとかあるし、部活に行っているんならそういういじめがあったり、あるいは体罰とかなんとか嫌だなと思うと、どうしてもやっぱり臆してしまうということもあったりするのかもしれないですが、その部活に行くと、授業ではないいろんな学年も違えば、いろんな性別もいろんな関わりがあって、その中で、いろんな揉まれて、社会性を学び、学習をし、いろんな経験があってそれだけの価値もある、教育的効果があるにもかかわらず、そういう状態があるのは、やはり、子どもたちに対してそういう情報発信じゃないですけども、こういう価値があるよと、自由を与えればいいですが、これだけの価値があるのであれば、他律のよさとか、何か一つやろうねというそういうことも必要なのかなという印象を持ちました。

もう一つですが、この前新聞で見えていて、指導死という言葉が私がショックだったんですけども、職務熱心とか指導熱心の余り、生徒自体を傷つけてしまう、あるいは命をなくしてしまうという、これはすごく私ショックで。これだけは、結果として避けなければいけない。職務熱心の余りという弁解自体は絶対させてはならない、そのために、もし地域に移行したとしても、指導者自身にそういうものが、潜在的にもあるとやはり、何のためのスポーツなのか何のための部活なのかというのはわからなくなるので、私はその辺のセキュリティとか、その辺の価値観とか、人権意識といいますか、そういうものだけは最低限やはり確保しなければいけないだろうという風に思っているところです。これは私の感想でしかありませんので、ちょっととんちんかんなのかもしれませんが、一応、私も意見させていただきますありがとうございます。

【大賀委員】

私も学校教育の立場には立ったことがないので、地域のスイミングスクールをずっと運営してきました、学校部活には若干関わってきたことがありますが、今皆さんからのお話を聞いて、なるほどそうだよねというご意見ばかりで、私が一体何をしゃべったらいいのかという思いがしています。非常にこう、ものすごい資料をいただいて、目を通していく中で、働き方改革から見た部活の改革なのか、子どもたちのための目線で見えた改革なのか、非常に範囲が広いので、スポーツクラブを運営する中での立場としてちょっと感想を言わせていただきます。小学校の部活があったときは、私たちスイミングスクール、早い子どもだと 3 歳からスイミングを習いにきます。そして、ある程度訓練を受けた指導者がずっとこう、コ

一チですねインストラクターが指導していく中で、小学校3年生ぐらいになると、ほとんどの子がやめていきます。それこそ水泳選手になりたいとかという子以外はやめていて、やめる理由が、部活をしますという理由でやめていきます。でもそれはもう私たち大いに結構だったのですが、今小学校の部活がないですね。だから、部活をやめますという退会理由がほとんどなくなってきていて、この資料の中で、まだ子どもたちが地域型のほうに入っていくのはちょっと少ないですね。じゃあ、子どもたち一体何やっているのだろうという風な、ちょっと何か不思議だなというふうに思っていました。そんな小学校時代を過ごした子どもたちが、今度ちょっと地域でせっかく水泳していたから、水泳部に入りました、という連絡をくれたりするので、やはり部活は大事だなと思います。お子さんが1人じゃなく、もう3人も4人もいるご家庭でスイミングスクールに全部やると、経済的にかなり負担がかかります。だから、多いところは、上2人ぐらいはスイミングにやって、1人やめたら1人入れてという、流れが非常に多いです。やっぱり部活動のよさというのは、経験してなくてもできる、経済的に負担も少ないということで、私たちも、できれば水泳部が小学校にあったらなという思いはありました。地域型スポーツクラブに移行しても、水泳は難しいです。やっぱり通えない、プールが1年中使えないということがあるので、私たちが地域に密着したスポーツクラブを目指してやるのが、小学校に送迎バスを回しています。近隣だけにはなりますが、高学年になっても、続けられるように、直接学校に迎えに行き、あとは保護者さんに返すという風な取組をやっています。ですので、ぜひ部活動というのは中学校になってもやってもらいたいけど、小学校がもう少し、地域型にずっとみんながやれるような環境になればいいなと思ってお話を聞いておりました。

【中川副委員長】

私の意見ですけれども、簡単に言いますと、現状は非常に大事と分析をされていると思います。ただ、これから先のものを考えるときに、現状だけではなくて、私としては、スポーツそのものの考え方の広さを、やっぱりもう1回捉え直さないと、そこから、地域をとか、学校をどうしていくかということを考えていかないと、下から積み上げていって上を見るというよりも、やはり、今後の熊本市の子どもたちの、スポーツの在り方というのを、やっぱりもう1回ここで、考え直す時がこの地域に移行する、きっかけだという風に思っていて、そこを考えるべきだと思います。先ほどありましたけれども、やっぱり誰が主役かというのを、やっぱりきちっと捉えないと、私で言えば指導者が主役かという現状だったのも、やっぱりもう1回そこで、本当にそれでいいのかという問い直しをしていく必要があるのかなというふうに思います。

もう一つは、やはり格差の問題が出て、指導費がかかったという、これ、当然出てくる疑問ですけれども、ある面では、今まで学校の先生で言えば、ある意味で、給与的にもらっていた部分から指導されたのですが、私のところかというと、それで生きていく人間をつくっている者からいうと、そこも考えていただかないと、安いほうがいいという話だけでは難しいのかなと思います。この地域移行は、多分、1団体でやれるような話ではなくて、やっぱり子どもたちのスポーツ環境をどう減らさないで、それ以上にしていくかといったら、それぞれがやっぱり、今まで学校の先生だけに頼っていた部分を、やっぱり、みんなが少しずつ

手を出していく、そういう仕組みを、いかにつくるかということではないかな。私スポーツにずっと関わってきましたが、実技だけしかスポーツって考えられているのが、ここは違うじゃないか、スポーツ科学はもっといっぱいいろんな、知識がある。でもそれをほとんど子どもたちに還元してないところもあるかなという風に思います。スポーツ障害はこうとか、スポーツ医療はこうというだけはやりますけど、もっといろんな形で、スポーツを考えてまた、知識も得ていって、義務教育を終わっていただくと、本当にスポーツは何かをわかった状態を出ていける、そういう子どもたちをつくっていただければと。これには、さっきも何回も言いましたけども、みんながやっぱり少しずつ手を出して、育てていく仕組みがあればいいなと。なかなか難しいですけど、先ほど教育長言われましたけど、熊本市は、その部分で言うとほかの都市に比べると非常に、資源的にも、可能性は高いと思うので、ここしかない、すばらしい仕組みというの、この検討委員会で、私も意見言いますけども、みんなで作くり上げていただければという風に思います。

【金森委員】

熊本市立の中学校 42 校ありまして、中学校の校長の会がありまして、その中で、7、8 名で、部活動を考えようということで何度か会合を持ちました。その中で出た意見が、先ほどありました東町、湖東、東野中の拠点校というやり方です。すると、幾つかの課題は解決できるかなと思います。クラブチームほど遠くまでを送迎しなくていい、隣の校区、隣接した校区で、例えば三つの学校で野球を一つ、サッカーも一つ、野球は湖東中でします、サッカーは東野中でやりますよ。指導者も、全員がやりたくないわけじゃなくて、やりたい教員もおります。ですからその子、その先生たちに、きちんとした対価、兼職兼業を認めていただいて、そういった放課後の指導を最低賃金以上のお金を出していただいて、部活動として存続すると、拠点校方式ということで、それが 1 番現実的ではないかな。指導者の数もある程度います。施設は学校施設を使えばいい、放課後そのままできる。ということで今のところ、校長会の数名の中では、これが 1 番現実的ではないかという風な話をしております。

【坂下委員長】

情報提供いただきまして、ありがとうございます。本当に、たくさんの、いろいろな分野から委員の皆様がお集まりになっている強みを生かして、熊本ならではの仕組みを何とか考えていければなと思っております。

後日またお気づきになられたことがございましたら、教育委員会事務局学校改革推進課のほうにご相談ください。

尚、今回の本会議の議事録につきましては、事務局にて作成後、委員の皆様へ送付されますので、ご確認いただきますようお願いいたします。その後、私の方で、最終確認を行い、確定させていただいてもよろしいでしょうか。